

幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局 橋本守行
電話090-7746-8689

第 58号
令和8年 1月 1日



謹んで新春のお慶びを
申し上げます
越前町長 高田浩樹

幸若舞の里づくり会の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は町行政に対し、温かいご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、日本中世を代表する伝統芸能である幸若舞は当町田中にて発祥いたしました。室町時代には將軍や天皇の御前で披露され戦国時代には数多の武将たちに愛好された歴史を持ちます。特に永禄三年（一五六〇）桶狭間の戦いに際し、織田信長公が一人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻の如くなり」と「敦盛」の一節を舞った逸話はあまりにも有名です。江戸期には、幸若舞は能楽と並ぶほどの芸能として幕府に保護され西田中地区を中心に幸若家は大いに繁栄しましたが時代の変遷とともに越前幸若舞は姿を消しました。しかし、大頭流は九州へ伝わり、

に、当町で生まれ長く傳承されてきた幸若舞は、私たち越前町にとってかけがえのない誇りであり、幸若舞の里づくり会の皆様は日々研鑽を重ね、まちかど美術館展示・あさひまつりへの出展・朝日小学校の出演など多岐にわたる活動で、その顕彰と普及にご尽力されております。また、現代版幸若舞の創始や、西田中白山神社や織田・田中神社などの催しでの上演を通じて、町内外の方々に幸若舞の魅力を伝える活動を積極的に行っておられるお姿に、深い敬意を表する次第です。こうした熱心なご活動は郷土の歴史や文化を見つめ直し、先人の知恵を学ぶ貴重な機会であり、先人の知恵を担う子どもたちの郷土愛を育み、地域の活力につながっていくものと確信しております。新しい年が、会員の皆様にとって希望に満ち溢れた最良の年となることを心から祈念申し上げます。また、本年も変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。挨拶といたします。

「大江の幸若舞」として福岡県みやま市瀬高町に、国の重要無形民俗文化財として息づいております。このように

新年会開催のご案内

本年の当会新年会を下記のとおり開催しますので、奮ってご参加をお願いいたします。なお、今回は元町会議員で西田中地区長老の橋谷正紀氏に「懐かしい西田中今昔」をテーマに話題提供をお願いしております。

記

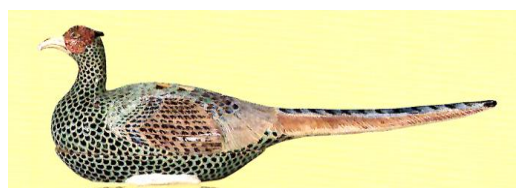
- ・開催日時 令和8年1月18日（日）午前11時～
- ・会場 朝寿殿和室
- ・会費 2,000円／人
- ・申込期限 1月14日（水）
- ・問合せ申込み先 橋本会員 090-7746-8689



幕府の式楽となった幸若舞の雅の世界がかって西田中地区にあったことに思いをいたしましょう！

加賀宝生流能鑑賞

秋季研修旅行 金沢能楽堂



国宝「色絵雉香炉」

さる十二月七日、会員十三名の参加を得て、金沢方面に研修旅行を実施しました。石川県立能楽堂で上演された金沢能楽会の定例能を鑑賞しました。番組は「絵馬」や「舍利」などで、毎日せわしい時間を過ごしている会員も、ゆったち・ゆっくりとした空間・時間を過ごすことができました。

また、公演の前後には、近くの雪吊りが施された兼六園を散策したり、野々村仁清作の国宝「色絵雉香炉」や九谷焼の名品などが展示されている石川県立美術館を訪ねました。

朝日小学校郷土学習発表会



さる十一月七日、朝日小学校で郷土学習発表会が開催されました。五年生がいくつかのグループに分かれて、取り組んでいつもの「幸若舞」に関して、男女八人が参加しました。この日は、他の学校の教員も参観にきており、好評でした。児童たちも幸若舞について、理解を深めたようでした。

橋本左内と笠原白翁

幸若歴史愛好会開催⑱

十二月十七日、会員十三名の参加により、幸若歴史愛好会が開催されました。今回は「橋本左内と笠原白翁」と題して、角鹿講師の講義を受けました。

①越前に初めて種痘を本格的に導入した笠原白翁は、左内より二五歳年長であったが、左内の才能を認め、交遊が続けられた。

②左内は大坂適塾留学中に白翁の依頼により、入手した蘭方医学書の筆写した。その筆耕料は、適塾生などの支援にあてられた。

③左内の大坂遊学は、学問一筋で酒色におぼれず、春嶽より表彰を受けておる。

④当時の医学界は内科を中心とした漢方が主流であったが、福井では外科を中心とした蘭方が重視されていた。

⑤当時の医者は、藩医（身分は武士）と町医に分かれていた。（現在で言えば大病院の勤務医と開業医に当たるのだろう）しかし、診察・治療に当たっては武士や町人を区別せず、勉強会等の相互の交流もあったという。

朝日地区文化祭参加 11月1～2日



本年もさる11月に開催された朝日地区文化祭に展示参加しました。これまでと同様にDVDやリーフレットなどで幸若舞をPRしました。また、本年は昭和48年に廃線となった福鉄鮎浦線の記録ビデオも放映して、来場者からは懐かしいと好評でした。



当面の主な予定

金沢能楽会福井公演 1月 5日 (月) 13時～
 宝生流能「箆えびら」 福井ハピリンホール 入場料500円

新年会 1月18日 (日) 1面参照

歴史愛好会 1月27日 (火)、2月24日 (火) 10時

朝日小発表会 1月30日 (金) 幸若題材



天王川改修七房歩道橋桁再架設R07.11

安土城シンポジウム2025に参加



尾崎会長
パフォーマンス

なお、安土城の建築構造に
関心のある方は、同会より資
料を頂いておりますので、事
務局までご連絡ください。

天正四年（一五七六）、琵琶湖畔に天下布武
を目指して織田信長が築城した安土城が築城四
五〇年を迎えるに当たり、近江八幡市郷土史会
により、記念シンポジウムが十月二十四日開催
されました。

この安土城は、天正十年の本能寺の変後、焼
失し、幻の城郭となってしまいました。しかし、
信長が心血を注いで設計・建設した城郭は、そ
れまでの城郭とは異なる性格・構造を持つもの
で、以後の研究者や名工などがさまざまな、分
析復元を試みてきましたが、いまだ決着は、見
ておりません。そこで、「安土城再建をめざす
会」会長の尾崎信一郎氏が、持説の浸透もか
ねて、関係専門家などによるシンポジウムが企
画されました。シンポのメインテーマは建築構
造の問題ですが、信長が愛した「幸若舞」など
も影響しているとして、当会に協力要請があり
PRの場の提供も受けました。当会からは会長
以下五名が参加しました。

尾崎会長の幸若舞に關係した主張は次の通り。
① 信長の先祖を祀る織田劍神社と安土城は北極
星と大地を繋ぐ「天道」上にある。
② 桶狭間の合戦を前に、信長は戦勝を祈念、将
兵を鼓舞するために「幸若舞・敦盛」を舞った。



幸若舞PRパネル展示



歴史学者・小和田哲男氏への説明



劍神社と安土城



参加者一行とシンポ会場のヴォーリス学園 米国人ヴォーリス
は明治38年に英語教師として滋賀県に赴任し、メンタムの近江
兄弟社の設立や県内の学校建築に携わった。平成時代の豊郷
小学校の校舎存廃問題は全国的に話題となった。